

3. <トイレ…>

「よもやま話」を書いて下さいと言われて早速辞書（広辞苑）を引いてみると、「よもやま話」は漢字で「四方山話」と書いて、世事についての雑談、世間話と説明されています。

そこで、我家のささやかな日常の中からひとつご紹介します。我家の娘は5歳ですが、毎朝トイレから大声で「おとうさん、おかあさん、うんち出たから見て！」と叫び、親のどちらか、あるいは両方が確認するまで水を流しません。そして、時にはその物体の状態を事細かに説明をしてくれることもあります。いつの頃からか、我家ではトイレが特別の場所ではなくなりました。言うまでもなく、トイレは下水道の原点のひとつです。また、下水の処理は我々の家庭の排水口からすでに始まっているのです。つまり、下水道を取巻く様々な問題は我々の生活の延長上にあり、我々の意識の持ち方次第でかなりの問題が解消できるはずです。そう考えると、我々下水道に携わる者は、利用者が下水道をもっと身近に感じられるような広報活動と情報発信に努める必要があるのではとの感を強くしました。娘とのトイレを舞台にしたやり取りの中で、そんなことに思いを廻らす今日此の頃です。

< 若山 正憲 >

※No. 3号(2002/6/17)に掲載